

1 1月の植物

ダルマガク (キク科シオン属)

学名 : *Aster spathulifolius* Maxim.

11月、秋が深まる頃、山の木々は赤く色づき、温かい日差しの名残を惜しみながら、秋の果実の置き土産をして、来るべき厳しい冬の予感を感じさせる。その一方で、今が春とばかり美しい花を咲かせる植物も多い。

唐津市の北西、東松浦半島の海岸は玄界灘に面して北風が吹き付ける厳しい環境だ。そこで咲き誇るキク科の植物がある。ハマベノギク、ホソバワダン、シマカンギク、そしてダルマガクだ。特にダルマガクは険しい断崖に花を咲かせているのをよく目にする。岩場の中にたまった微かな土壌にどっしりと株をおろして、厳しい海風の中、事も無げに美しい花を咲かせる姿が、人をしてダルマと呼ばせたのだろうか。

ダルマガクの分布は対馬海流に沿った九州北部と、山陰地方の海岸に限られているようだ。花はシオン属(ヨメナなど)らしい薄紫色で、似た環境に咲くハマベノギクもそっくりだ。特徴的なのは葉である。葉は丸くて短いへら状をしている。葉肉は分厚くて両面に軟毛をびっしりと生やしている。一見して愛らしいピロード状の葉を思わず触ってみたい気になるが、粘液でぬれており触るとネトネトしている。潮風から体をまもる仕組みなのだろうか。花は主に薄紫色だが、まれに白花があるようだ。

(文責：寺村朋輝)



断崖に花を咲かせるダルマガクの白花 2020年11月 唐津市加部島
左の拡大写真は秀島泉様提供